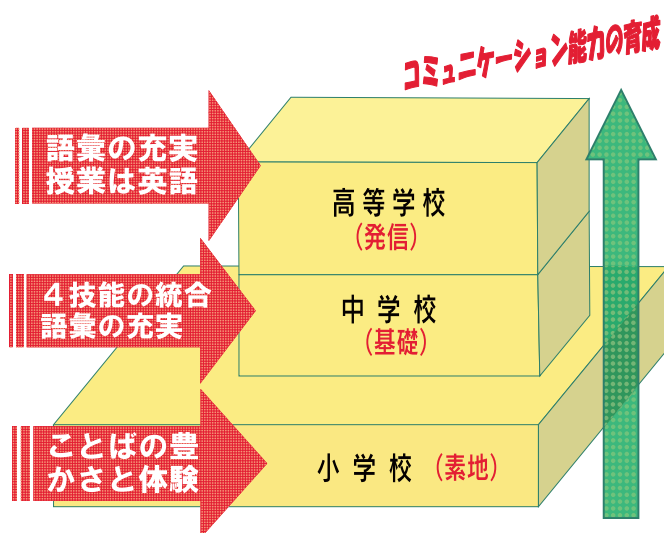


# 小中連携推進のポイント

## ポイント① 系統性や違いをよく知ること

### ー外国語活動の新設ー

#### ● 小・中・高等学校を通して、コミュニケーション能力を育成する



学習指導要領改訂において、小・中・高等学校における外国語教育の系統性が示されています。

「聞くこと」や「話すこと」の指導においては、中学校で培われてきた指導方法を、外国語活動の目標に照らして小学校へ提供しながら円滑な接続を図ることが大切です。

「読むこと」や「書くこと」の指導においては、高等学校で培われてきた指導方法にも学びながら連携を図ることが大切です。

一人一人の教員が、小・中・高等学校の学びの連続性を意識して指導に当たることが重要です。

### ー違いを知って指導ー

#### ● 外国語活動を通して、コミュニケーション能力の素地を育成する

	外国語活動（小学校）	外国語科（中学校）
位置付け	領域	教科
学習指導要領（解説）	中・高等学校の外国語科で目指すコミュニケーション能力を支えるもの	小学校における外国語活動との関連に留意して、指導計画を適切に作成する
目標	コミュニケーション能力の素地	コミュニケーション能力の基礎
特徴点① 「慣れ親しむ」	外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ	適切で正確な表現の定着を求める
特徴点② 「積極的な態度」	外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験する	実際のコミュニケーションを目的として外国語を運用できる
特徴点③ 「音声中心」	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国語を聞き、外国語を用いてやりとりを楽しむ</li> <li>文字の指導は、アルファベットの認識、日常の英語文字に気付くなど触れる段階にとどめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発音と綴りとを関連付けて指導する</li> <li>「聞くこと」「話すこと」に加え、「読むこと」「書くこと」の4つの技能をバランスよく育成する</li> </ul>
特徴点④ 「評価」	各学校で評価の観点を定めて、評価を文章で表記する	目標に準拠した評価 評定：学習指導要領に示す目標に照らして、その実現状況を総括的に評価し、5・4・3・2・1により記入する
特徴点⑤ 「カリキュラム編成」	<ul style="list-style-type: none"> <li>話題・題材中心：「数」「外来語」など</li> <li>場面中心：「道案内」「買い物」など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文法配列：知識を系統的に学ぶ</li> <li>言語材料：平易なものから難しいものへ</li> </ul>